

令和6年度 第1回岡崎市生涯学習推進委員会会議録

1 開催日時

令和6年5月13日 10時00分～11時30分

2 開催場所

岡崎市図書館交流プラザ 会議室301

3 委員出欠状況

(1)出席委員

益川 浩一 委員長（岐阜大学地域協学センター長・教授）

江良 友子 委員（愛知学泉短期大学准教授）

山田 美代子 委員（りぶらサポータークラブ副代表、市民協働推進委員）

葉山 栄子 委員（岡崎市社会教育委員、名古屋学芸大学非常勤講師）

神谷 良夫 委員（市民公募委員）

三井 節代 委員（市民公募委員）

(2)欠席委員

三矢 勝司 委員（特定非営利活動法人 岡崎まち育てセンター・りた  
事業推進マネージャー）

4 事務局出席者

社会文化部

加藤 健一郎（部長）

中央図書館

谷端 健司（館長）、大村 しのぶ（副館長）、本多 正直（総務係長）

生涯学習課

岡田 武士（課長）、丸本 洋乃（副課長）、岩田 弘志、太田 隼平

5 傍聴者

0名

6 委員長挨拶（省略）

7 社会文化部長挨拶（省略）

## 8 議題

(1) 昨年度の事業報告

(2) 今年度の事業予定

それぞれ事務局から説明した。

<以下、各委員の意見等>

### ■施策1 多様な学習・交流機会の提供

委員： 施策1-1について、市民センターの定期講座数が、令和4年度から令和5年度で大きく減少しているのはなぜか。

事務局： 定期講座は初心者向けの講座として位置付けており、リピーターが多い講座は開催を見送り、初めて受講する受講者が多い講座の人数を増やして開催したため、講座数が減少している。

委員： 施策1-3について、配布目標が50冊というのは少ないように感じる。知的障がい以外の障がいなど、ニーズが読み取れていないのではないか。

事務局： 分母の把握も含めて、ニーズの調査について進める。

委員： 施策1-2について、自主講座団体が1割以上減っているが、理由がわかれば聞きたい。

事務局： 明確な理由は未調査であるため、解散する団体にアンケートして理由を探る。

委員： 施策1-2で「市民のライフステージに応じた学習支援」を掲げているが、自主講座団体が市民センターを利用する際の優先予約や使用料減額が、市民のライフステージに合わせた支援になるのか。この自主講座団体というのはどういう団体で、その団体に属していない個人が活動をしたときに減免を受けられることができるのか。

事務局： 自主講座団体というのは市民の方が自主的に作成し、岡崎市に登録した団体である。この団体を作れば減免や早期の予約を受けられる。個人の方が学習をしたいということであれば、通常の利用方法となる。ご指摘の通り個別施策に3者それぞれのライフステージに応じた支

援を確立できていない。今後の計画の見直しに合わせて施策を検討する。

委員： 施策1－4について、令和4年度5年度と成果発表会の開催数が2年続けて0回となっており、今年度の目標が1回で100名になっている。この目標設定でよいのか。

事務局： 規模や手法を検討しているうちに2年未開催が続いてしまった。まずは1回開催とし、研究を進めたい。

## ■施策2 市民が利用する学習施設の充実

委員： 施策2－2について、回送のサービスポイントが9カ所となっているが、これを増やす予定はあるか。

事務局： 現時点での計画はない。

委員： 施策2－3について、計画の基本方針に沿った電子図書館導入の進捗はどうか。

事務局： 電子図書館の導入は未定である。国が子ども読書活動推進計画の中で読書とICTのベストミックスについて推奨している。岡崎市でも第4次子ども読書活動推進計画を策定していくに辺り、電子図書館についても検討していくことになるだろう。

委員： 基本計画には「いつでも、どこでも、だれでも、なんでも」と謳われている。これに合致する電子図書館を、是非とも早急に実現してほしい。

委員長： 日進市で学習用に電子書籍を導入するクラウドファンディングが成立したと聞いている。ファンディングの活用を含めた多様な予算の確保について検討してほしい。

## ■施策3 情報提供・相談支援の充実

委員： 施策3－1、②「生涯学習に関する多様な情報の集約・整理・提供」の定期講座の動画公開について、今年度の目標が1件となっているが、少ないのではないか。

事務局： ノウハウが無いのでまず1件作成し、効果を見ながら検討したい。

委員： 施策3-1、③「生涯学習講座等の募集方法の見直し」の取組2、市民センター定期講座の見学会について、令和5年度は20講座開催して5人しか見学していない。これを改善して令和6年度には9講座100人を見込んでいくことについて説明してほしい。

事務局： 令和5年度は実施している講座を見学するだけの見学会であり、広報も不足していたため検討している方の意欲に訴えられなかった。令和6年度は実際に講座の抜粋のような形で開催し、参加を促す予定である。

委員： 定期講座の体験会について、目標人数が100人となっているが理由があれば聞きたい。

事務局： 令和5年度は講座を見学できる見学会を開催したが、開催数に比して参加人数が少なかった。令和6年度は受講を検討している方を対象に参加できる講座を開催し、参加できる人数を増やしたいと考えている。講師の負担減のため、講座数は令和5年度よりは絞って開催する予定である。

#### ■施策4 地域における生涯学習の推進

委員： 施策4-1について、前回の会議の際、郷土や郷土の偉人についての講座を開催するつもりだと言っていたが、1講座のテーマはもう決まっているのか。

事務局： 山中城址についての講座を予定しており、講師も決まって依頼をしているところである。

#### ■施策5 生涯学習を支援する人材の育成・推進体制づくり

委員： 生涯学習を推進していくという思いで委員はいるので、生涯学習機会の提供ができていないところはその原因究明が必要である。ノウハウがないというのも承知しているが、なぜ進まないのかということを知りながら取り組みを進めてほしい。

委員：今回課題に挙がっているのは第三次生涯学習推進計画に書かれていたことで、5年が経過しても改善をしていこうという姿勢が見られないように見受けられる。できないことはできないというのは理解できるが、それを進めるべく委員としては意見を述べているので、できないのはなぜなのか、或いはできないなら何か他の手立てがないのか、前向きに対応してほしい。

部長：様々な御意見を頂戴して感謝している。本日の資料を見ていると生涯学習課が自ら企画をして、自ら予算をとって推進していく事業が中心になっている。私の認識としては生涯学習を底上げしていくということは必ずしも生涯学習課だけの仕事ではなく、例えば文化、協働、観光、環境、子育て、福祉といった様々な部署とタイアップしていきながら、結果的には生涯学習につながるといった、政策同士を掛け合わせていく作業が必要である。次回の会議では、様々な分野の事業が生涯学習の推進に貢献しているということを可視化する。

委員長：庁内庁外から関連する生涯学習関連事業を収集してもらい、我々も共有して議論を進めていければと思っている。委員の皆様にも引き続きご意見を頂戴できればと思っている。

9 連絡事項  
特になし。

会議終了